

大黒島で繁殖するコシジロウミツバメの生態調査

大黒島ではさまざまな生き物が生息している



アザラシ類



ラッコ

多くの海鳥類が繁殖する



コシジロウミツバメ

大黒島は、コシジロウミツバメの日本最大の繁殖地（環境省自然環境局生物多様性センター 2019）

世界的に減少傾向にある（BirdLife International 2022）

筑波大学行動生態学研究室では、大黒島に生息する海鳥の調査を行なっています！

コシジロウミツバメの営巣環境の調査

大黒島で繁殖するコシジロウミツバメはどのような環境に多く営巣しているのか？



40m²の調査区内の巣穴数を計測



植生・土壌硬度・傾斜との関係を調査

結果・考察

- ・コシジロウミツバメの巣数は土壌が柔らかく、傾斜が急な場所で多く見られる傾向が見られた
→コシジロウミツバメが容易に巣穴を深く掘ることができる可能性
- ・巣穴が深いほど孵化成功率が高くなる（綿貫 1985）



巣穴を容易に掘ることのできる場所は、コシジロウミツバメの繁殖に適する可能性

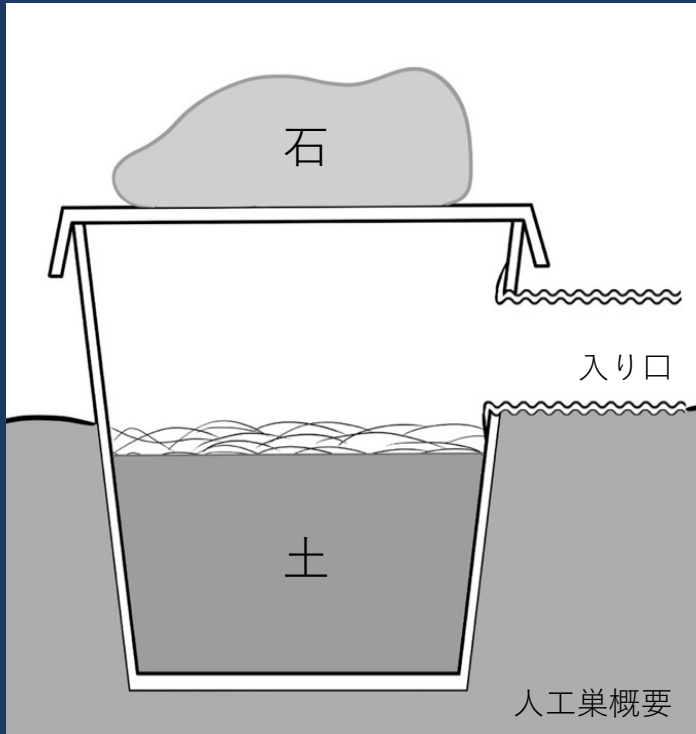
- ・巣穴密度は優占する植物が、イネ科>エゾヨモギ>オオイタドリ>アキタブキ>エゾアザミの順に大きく、イネ科とアキタブキ、エゾヨモギとアキタブキの間には有意な差があった（Tukey method, $p < 0.05$ ）
- ・1984年は、イネ科よりもエゾヨモギが優占する場所で巣穴密度が高くなる（綿貫 1985）



繁殖地選択として、イネ科植物が優占する場所でも繁殖をに多く利用されるようになった可能性

コシジロウミツバメの人工巢利用

大黒島のコシジロウミツバメ繁殖地に人工巢を設置しました！



本体に植木鉢を使用



雨水がたまらない

2021年に設置した人工巢で、コシジロウミツバメの繁殖が確認されました！



展望

2021年と2022年に埋没した人工巢を毎年確認・修繕する



コシジロウミツバメへの影響を軽減する調査方法の確立と、安定したモニタリング調査を行う

海上観察による海鳥類の生息状況調査

2022年7月7日に、船上センサスにより、大黒島周辺の海鳥類・猛禽類の営巣数・個体数を記録した



ウミウ

合計48巣の営巣を確認
東部と南部で多く繁殖



カモメ類

オオセグロカモメ4巣
ウミネコ 10巣
の営巣を確認



その他海鳥類

ケイマフリ 4羽
ウミスズメ 1羽 を確認
繁殖個体かどうかは不明



猛禽類

オジロワシ 成長 2羽
オジロワシ 亜成長 1羽
を確認

- ・ウミウは断崖で営巣する海鳥であり、海上からの観察は、生息数を把握する上で重要
- ・カモメ類は、島南部の灯台付近で多く繁殖しているが、船上センサスでは観察することができなかった
- ・ケイマフリやウミスズメの繁殖の有無を確認するためには、島東部の急崖の調査をさらに行う必要
- ・海鳥類に対するオジロワシの影響を評価するためには、今後詳しく調査をする必要がある

参考文献

- ・ BirdLife International (2018) *Hydrobates leucorhous*. The IUCN Red List of Threatened Species 2018: e.T132438298A132438484. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2018-2.RLTS.T132438298A132438484.en>. Accessed on 15 February 2023.
- ・ 環境省自然環境局生物多様性センター (2019) 平成30年度 モニタリングサイト 1000 海鳥調査報告書. 環境省.
- ・ 綿貫豊. (1985). 大黒島におけるコンジロウミツバメ (*Oceanodroma leucorhoa*) の繁殖生態. 山階鳥類研究所研究報告17: 9-22.